第２節　学会発表等

学会名	開催日	開催地	テーマ	発表者
第25回石川県小児保健学会	H26.10.5	金沢市	精神的疾患をもつ母親への 支援状況とその背景要因について	柏木 ほなみ
第42回北陸公衆衛生学会	H26.11.17	福井市	出産前からの多機関連携の実際 （内容については、個人情報保護のため掲載しない）	松本 美紀

精神的問題を持つ母親への支援状況とその背景要因について

○柏木ほなみ、松本美紀、新田悦子、沼田直子（石川県南加賀保健福祉センター）

【はじめに】

当所で関わった母子事例のうち、精神的問題を抱えるハイリスク妊産婦のプロフィール及び支援状況について検討し、その背景要因について若干の知見を得たので報告する。

【実施方法】

① 対象：平成 24 年度、平成 25 年度に当所で関わりのあった事例 443 例のうち、評価可能であった有効事例計 270 例。

② 分析方法：270 例中精神科受診歴ありの者、EPDS 高得点者(9 点以上)または何らかのパーソナリティ障害を疑わせる者を、精神的問題をもつグループとして抽出した。さらに毎日～月 1 回まで頻回に訪問を要した支援の必要性の高かった者をＡ群とし、それより頻度の少なかった者をＢ群としてグループ分けを行い、Ａ群に関してどのようなリスク要因があったかの分析を行った。

【結果】

① 270 例中母親に何らかの精神的な問題があった者(以後「問題あり群」)は 119 例(44.1%)であった。内訳は EPDS 高得点者 84 例、精神科受診歴ありの者(以後「受診歴あり群」)が 50 例、EPDS 高得点かつ精神科受診歴のある重複した者が 15 例、相談記録上パーソナリティ障害を疑わせる者が 6 例であった。

② 受診歴あり群 50 例中診断がついた疾患の内訳は、うつ病・双極性障害など気分障害のものが 26 例(52.0%)と最も多く、続いてパニック障害が 5 例(10.0%)であった。

③ 訪問支援の必要性の高さ：

Ａ群は 270 例中 51 例(18.9%)あった。問題あり群 119 例中Ａ群は 28 例(23.5%)あり、受診歴あり群 50 例中Ａ群は 24 例(48.0%)であった。さらにこの 50 例中月 2～3 回以上の訪問支援を要した者は 13 例(26.0%)であった。

④ 経済的不安の背景：

生活保護受給者や生活費に関わる費用の滞納などの経済的な不安がある者は270例中 34 例(12.6%)あった。問題あり群 119 例中 14 例(11.8%)に経済不安があり、14 例中 10 例(71.4%)は受診歴のある者であった。

⑤ 夫との関係性：

夫との関係が不良または夫がいない者は 270 例中 26 例(9.6%)あった。問題あり群では 119 例中 13 例(10.9%)あった。その 13 例中 8 例(61.5%)がＡ群であった。夫との関係が良好な場合と比べて、関係が不良であると頻回な訪問支援の必要性が高い傾向がみられた。

また受診歴あり群 50 例のうち夫との関係が不良または夫がいない 8 例中 5 例(62.5%)がＡ群であった。夫との関係が良好・不良であっても、高率に訪問支援が必要である傾向がみられた。

⑥ 実母との関係性：

「夫との関係性」と同様に実母との関係性について比較すると、問題あり群、受診歴あり群ともに、Ａ群において差はなかった。

【考察】

全体の半数近くが何らかの精神的な問題のある事例であり、精神科受診歴のある事例のうち気分障害が半数以上を占めていた。

精神的な問題がある者 4 人に 1 人は月 1 回以上の頻回な訪問支援が必要であり、受診歴のある者 2 人に 1 人は頻回な訪問が必要であり、訪問支援の必要性を再認識した。

訪問支援の必要性が高い事例の背景に経済的不安があり、受診歴のある人が多いことが分かった。また夫や実母との関係性に関しては、夫との良好な関係は重要な要素であるが、夫や実母の存在に関わらず、保健・福祉の支援が必要であった。

精神的な問題がある事例は複合的な問題を抱えており、今後も多機関連携での重層的な支援が必要である。